

◎経口用トロンビン細粒 [内]

【重要度】 【一般製剤名】トロンビン thrombin 【分類】上部消化管止血剤

【単位】◎1万単位/g [1包1g]

【用法】適当な緩衝液に溶かした溶液（トロンビンとして200～400単位/mL）を服用。出血の部位及び程度により適宜増減

【透析患者への投与方法】減量の必要なし。胃酸によるトロンビンの失活を防ぐ（pH5以下では不活性）ため、牛乳またはリン酸緩衝液とともに服用（5）

【保存期 CKD患者への投与方法】減量の必要なし（5）

【特徴】ウシ血液由来のトロンビン。フィブリノーゲンに直接作用してフィブリンに転化して止血作用を示す。上部消化管出血に対して経口での止血剤として適用される。酸により酵素活性を失うとともにその至適pHは7付近にあるので、事前に適当な緩衝液で胃酸を中和させること。

【主な副作用・毒性】呼吸困難、チアノーゼ、血圧降下、血液凝固異常、過敏症、発熱、頭痛

【吸収】局所で作用（1）

【作用発現時間】凝固速度はトロンビン溶液の濃度に依存する。1000単位/mLの溶液5mLは同量の血液を1秒以内に凝固する。また1000mLの血液を1分以内に凝固する（1）

【備考】＜服用上の注意＞トロンビンの至適pHは約7で、酸により酵素活性を失うので、事前に牛乳またはリン酸緩衝液で胃酸を中和させる。例えば、まず牛乳またはリン酸緩衝液50mlを与え、5分後少量の水で溶かした10000～20000単位を約50mlの牛乳またはリン酸緩衝液で希釈して投与する。併用薬に関する服用順序は緩衝液（マグテクト液）→トロンビン→アルロイドGで実施（5）

【更新日】20140807

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。